あれれ？また産経新聞さん。今度は、四つ角の道の色が変わった和（なご）み屋さん登場。

なんで変わったんでしょ？
四つ角とわかりにくくて、
危ないからかな？

前号のこの「かべ新聞」で、最近の新聞の夕刊は面白いということを書きました。

というのも、一面のトップ記事になっているものが「地域密着」したものだったからです。

それがなんとまあ、今度は、夕刊さんではなく、朝刊さんに進出です。

新聞の「オピニオン欄」という、いつも私は素通りするところ。なぜかこの日は目が止まり、読んでみると、「ややや、ややー」。力餅食堂さんよりもご近所の「和み屋（なごみや）」さんが出ているではないですか。

びっくりしたー。

このへんの道の色が
おうど色になりました。

もしかして、この記事を書かれた
「小林毅」さんがこの浮田町に、
旋風を巻き起こしてる？

産経新聞さん2010年2月9日(火)朝刊より。
「和み屋」さんがある場所は「路地裏」じゃないと
思うのですが、よくぞ見つけて記事にされたと思いました。

産経新聞

オピニオン

路地裏の闇に集う人々

OSAKA 大阪特派員
小林　毅

角を曲がって狭い道に入ると大通りの喧噪とは無縁の、緩やかな時間が流れる世界に出くわす。夜ともなれば、喫茶店やバー、雑貨店などの窓から漏れる光がぼんやりと通りを照らし、闇の濃さが際立つ。そんな路地裏は、時として創造的な仕事に携わる人を呼び寄せる。

大阪市の都心・梅田から15分も歩くと、戦災を免れ、戦後の再開発の波からも忘れられたような古い建物が並ぶ中崎町に着く。

「中崎町」という住所はなく、北区中崎、中崎西などの総称だ。近年、カフェや雑貨店などが増えたが、多くは空き家になった木造家屋、倉庫などをそのまま使っているので街の風情は保たれている。

骨董カフェ「和み屋」は、その中崎町に接する北区浮田にある。店先にたくさんの鉢植えやつぼ、古道具が並ぶ木造店舗は、廃業したうどん屋を借りた山口雅和さん（32）が自分で改装し、平成16年に店主に収まった。

山口さんは年1本ペースで自主映画を撮る映画監督でもある。大阪芸術大で彫刻を学んだ後、映画に転じた。放送局勤務もしたが、映画への思いは断てなかった。

中崎町界隈に店を持ったのには訳がある。映画作りには役者、カメラマン、音楽家など仲間が必要だ。「ここなら人材が見つかると思った。この辺は世に出てはないけど、やる気と才能のある猛者が大勢いる熱い場所なんです」

店に来たテレビクルー、客が紹介してくれた芸能プロ幹部、近所の店で意気投合したバンドマン。期待通りにキャストやスタッフは集まった。

18年の長編「或る探偵の証明」は梅田の映画館で夜間上映され、1週間で600人を集めた。今は長編時代劇「雑賀の孫市（仮題）」に取り組むなど、着実に歩を進めている。

1月末、山口監督の3作品が上映されたのも中崎西の路地裏にある自主制作映画専門のミニシアター「天劇キネマトロン」だった。古い印刷工場をスタッフが改装し、制作者が30分につき500円の料金（平日）を払えば上映する。山口作品は有料だったが、基本的に鑑賞料はとらない。上映後、併設のカフェバーで客と制作者が意見を交わす光景も見られる。

マネジャーの吉田弘さん（28）は「眼目は自主映画を見てもらうこと。素人さんの作品でも無料なら見てくれる」という。20年6月の開館以来、上映された学生やアマチュアの作品は約100本に上る。

シアターのオーナーは、近くのカフェ「サロン・ド・アマント（天人）」を経営するJUNさんだ。ダンスや大道芸をしながら世界中を旅しており、記者が吉田さんに会ったときも海外に出かけていた。「或る探偵の証明」の主役も務めた彼が、中崎町で盛んな空き家再生のきっかけを作った。

JUNさんは9年前、リサイクルがテーマのパフォーマンスとして空き家再生の過程を公開した。廃材はもちろん、現場で抜いたくぎも使う。見物は1千人を超え、手伝う人も続々現れた。

こうして完成したアマントを切り盛りするアート関係者は無給。代わりに店内のフリースペースを展示会、ライブなど自由に使える。「宿泊もできるアマントは、『こんな所がほしい』というJUNさんの旅芸人の経験と思いが詰まった店です」（吉田さん）。

アマントには、さまざまなアーティストが訪れ、中崎町で空き家を借りて改装して店を開く人も増えた。そこにまた人が集まる。町内活動や学校行事に積極的に参加する彼らの姿勢は住民の理解を得られ、山口さんのいう「熱い場所」が形成された。

町の磁力に引かれた多彩なアーティストの交流から、化学反応が起きるよう何かが生まれれば…それ」を路地裏の魔力だ。（こばやし　たけし）

ううう。しかし、こんな「かべ新聞」の
内容が続くと、「うちの宣伝してないやん」
と、社長に怒られるぅ～。

印刷も編集も製本も
原稿作成もしています

TAPP
株式会社 タップハウス
大阪市北区浮田2-2-14 辻芳ビル
TEL.06-6375-2151 FAX.06-6375-2295

このビルの
右端の階段から3階へ